



ひかりのこつうしん

「運動会のドラマと小学校への架け橋」

2026年10月



ひかりの子幼稚園
園長　若槻　三記子

朝晩の冷え込みに、秋の深まりを感じる季節となりました。秋晴れの心地よいお天気の中、先日の運動会には温かな声援とご協力をいただき、本当にありがとうございました。 広いグラウンドで、ご家族の温かい視線に包まれながら、子どもたち一人ひとりが持てる力を存分に発揮していました。 大舞台でちょっぴり恥ずかしくて固まってしまう姿も含め、一生懸命に立って表現していたその姿に、たくさんの拍手を送りたいと思います。今回は、年長組の運動会にいたるプロセスで見られた、子どもたちの「心のドラマ」をご紹介します。

年長組のクラス対抗リレーは、子どもたち自身でグループ分けをし、走順を決めることから始まります。話し合いの中で、普段はおとなしいA君が「アンカーをしたい！」と勇気を出して自分の想いを伝え、アンカーに挑戦しました。しかし、チームは勝てず、アンカー時に抜かされてしまったことで、「アンカーを交代しよう」という意見が出ました。その意見に対し、目に涙をためながら首を横に振るA君の姿に、「運動会まではA君。 運動会当日は、足の速いお友達が走るのはどう？」という案があがりました。それでも、納得がいかないA君は、お家で「みんな大嫌い！」と言って悔し涙を流していたそうです。 休日をはさみクラスの仲間の思いを受けとめ、自分の想いに折り合いをつけて、みんなのために自らアンカーを譲るという大きな決断をしました。

一方、A 君には、「ゴールテープを切ってみたい！」という夢がありました。それを知ったクラスの子どもたちは「絶対に勝ちたい」という気持ちと「お友達の願いも叶えてあげたい」という二つの思いの間で葛藤しました。子どもたちが導きだした答えは、「A 君の夢を皆で叶えよう！そして運動会当日も 1 番になろう😊」というものでした。A 君の夢を叶えることがみんなの目標になり、心をひとつにしてバトンパスの練習に励み、運動会前日のクラス対抗リレーでは、見事に1位でゴールテープを切ったA君。クラスのみんなが自分のことのように飛び跳ねて喜び合った、感動の瞬間でした。

自分の思いが通らない悔しさや悲しみに折り合いをつけていく「自己調整の力」。そして、意見の違いを超えて仲間と共に考え、納得できる方法を探り合う「協同性」。A 君の心の成長と、それを受け止め共に歩んだクラスの仲間たちの育ち、その両者が重なり合う経験こそが、子どもたちの心の根っこをたくましく育てていきます。

先日、「幼保小の架け橋プログラム（幼児教育と小学校教育を滑らかにつなぐ取り組み）」の一環として、地域の小学校の先生方が見学に来られました。参観された先生方は、子どもたちが先生の話をよく聞いていることや、クラスごとに主体的な活動をしていることに感心されていました。さらに、このリレーのエピソードをお伝えしたところ、就学前の子どもたちが相手の気持ちを思いやり、言葉で話し合いながら解決策を見つけていく姿に「本当に素晴らしいですね」と感嘆されていました。

幼稚園生活の中で育まれた「自分の気持ちを表現する力」と「相手を大切にする心」は、小学校へ進学してからの学びや活動においても、ゆるぎない土台となっていきます。日頃から園の取り組みにご理解と温かいご協力をくださる保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。運動会を通して一段と絆を深めた子どもたちと、実り豊かなこの秋も一日一日を大切に過ごしてまいりたいと思います。